

**近畿地方交通審議会
近畿船員部会議事録**

第186回

令和6年3月21日

日 時 令和6年3月21日（木） 16時00分から

場 所 近畿運輸局 会議室（船員部会室）

出席者 公益委員 横見部会長、定岡委員、三輪委員、安達委員

労働者委員 浦委員、佐藤委員、坂上委員

使用者委員 磯合委員、土屋委員、開委員

運 輸 局 大谷海事振興部長、村上海事振興部次長、
土本船員労政課長、岡田船員労政課専門官、
竹内船員労働環境・海技資格課長

議題1．管内の雇用等の状況について

議題2．その他

議 事 概 要

横見部会長：

それでは、ただ今から第186回近畿船員部会を開催いたします。

あらかじめお配りしております「第185回船員部会」の議事録につきまして、ご承認をお願いしたいと思います。ご異議ございませんか。

(異議なし)

横見部会長：

無いようですので、ご承認をいただいたものとして取り扱わせていただきます。

それでは、議題1の「管内の雇用等の状況」について、運輸局からご説明をお願いいたします。

土本船員労政課長：

それでは「令和6年2月分管内雇用状況」につきまして、ご説明させていただきます。

1. 職業紹介状況

①求人関係

新規求人数は、49人（前月比－29人、37.2%の減、前年同月比－17人、25.8%の減）となっています。

月間有効求人数は、153人（前月比＋18人、13.3%の増、前年同月比－66人、30.1%の減）となっています。

②求職関係

新規求職者数は、10人（前月比－4人、28.6%の減、前年同月比－8人、44.4%の減）となっています。

月間有効求職者数は、30人（前月比で増減なし、前年同月比－14人、31.8%の減）となっています。

③成立状況

当月の成立数は、7人（前月比＋4人、133.3%の増、前年同月比：＋1人、16.7%の増）となっています。

④職員・部員別成立者内訳

職種別の内訳は、甲板部職員1人、機関部職員1人、甲板部部員2人、機関部部員1人、事務部員2人となっています。

年齢別については、10歳代0人、20歳代2人、30歳代1人、40歳代1人、50歳代2人、60歳代1人、70歳代0人となっています。

2. 新規求人・求職者の取扱実績

①職種別内訳

新規求人の職種別内訳は、職員32人（甲板部22人、機関部10人、無線部0人、事務部0人）、部員17人（甲板部12人、機関部3人、無線部0人、事務部2人）となっています。

新規求職の職種別内訳は、職員4人（甲板部3人、機関部1人、無線部0人、事務部0人）、部員6人（甲板部3人、機関部2人、無線部0人、事務部1人）となっています。

②新規求職者の退職理由

内訳は、船舶所有者の都合が3人、定年退職1人、雇用期間満了0人、本人の申し出4人、自己の健康0人、倒産0人、就労中2人、不明0人となっています。

③新規求職者の年齢別

30歳未満1人、30歳代1人、40歳代0人、50歳代5人、60歳以上3人となっています。50歳以上は8人で占める割合は80.0%、30歳未満は1人で占める割合は10.0%です。

3. 失業等給付金支給状況

当月末の受給資格者数は13人で、基本手当の給付実人数は1人、給付件数は1件となっています。給付金額は237,720円です。前月は2人、3件の602,790円でした。

それから、高年齢求職者給付金が2件627,350円、再就職手当が1件660,450円、就業促進定着手当が1件167,130円によって、当月支給額計は、1,692,650円となります。

4. 月間有効求人倍率の推移

2月の近畿船員は5.10倍で、前月比+0.60ポイント、前年同月比、+0.12ポイントとなっています。

5. 近畿運輸局、月間有効求人・求職状況

①月間有効求人は153人で、このうち、新規求人者数は49人となっています。

当局の紹介による求人側の成立は1人、他局成立は1名でございました。求人の取り消しは50人で、理由の内訳は有効期限切れ50人、自己応募・縁故により採用0人、会社都合により取り下げ0人、その他は0人となっています。

②月間有効求職者は30人で、前月と同数でした。

当局の紹介による求職側の成立は2人、他局成立は4人でした。求職の取り消しは11人で、理由の内訳は期限切れ8人、自己応募・縁故により採用1人、自己都合により取り下げ2人、その他0人となっています。

6. 全国運輸局別の有効求人、有効求職、成立数、有効求人倍率

①1月の全国の月間有効求人数は、3,234人で、前月比100.3%、前年同月比は107.9%となり、236人増加しています。

- ② 1月の全国の月間有効求職数は、697人で、前月比108.2%、前年同月比87.5%となり、100人減少しています。
- ③ 1月の全国の成立数は、45人で、前月比150.0%、前年同月比では68.2%となり、21人減少しています。
- ④ 1月の全国船員の有効求人倍率は季節調整値により4.74倍となっています。1月の全国陸上は季節調整値により1.27倍となっています。

以上が管内の雇用等の状況でございます。

横見部会長：

ご説明ありがとうございます。

資料1、2、3について何かご質問等ございますでしょうか。

横見部会長：

無いようですので、それでは、次に議題2の「その他」に入ります。

運輸局の方から説明をお願いします。

村上海事振興部次長：

資料4を説明申し上げます。

まず、令和6年1月分の内航海運の輸送動向調査の概要ですが、貨物船と油送船を合計した輸送量は前年同月比92%となっております。

1月は低気圧が断続的に発生から避難等による輸送障害が多く、1月1日に発生した能登半島地震による津波警報により沖へ避難する船舶もあり、一時的に荷役の遅れがあったようです。

貨物船は前月に続いて、燃料、紙・パルプが増加になった一方、自動車は2022年7月以来のマイナスになったため、貨物船全体の輸送量を下押ししました。油送船は高圧液化のみ前年同月比を上まわりましたが、黒油、白油の下げが大きく減少となりました。

(貨物船の概要)

1月の貨物船の輸送量は、前年同月比93%、前月比83%となっています。

鉄鋼は、前年同月比で100%。太平洋側を中心に時化に伴う輸送障害の影響が断続的にあり、翌月に繰り越す貨物が発生したため、船腹需給において逼迫感が見られたようです。

原料は前年同月比95%。スラグは前年同月が減少していたことで反動増となりましたが、石灰石や非金属鉱は減少したため、原料全体で減少となりました。

燃料は前年同月比110%。コークスは減少した一方で、石炭は堅調な輸送が見られたようです。

紙・パルプは前年同月比84%。紙製品等は減産により減少傾向にあるようです。

雑貨は前年同月比92%。低気圧の影響などで荷動きが低調となっているようです。

自動車は前年同月比80%。一部船社についてはメーカーの不正問題に伴う工場稼働停止により輸送する貨物がなくなり、全体としても大きな減少になりました。

セメントは前年同月比88%。セメントの全国的な販売減少に伴い低調に推移しているようです。

(油送船の概要)

1月の油送船輸送量は前年同月比91%、前月比で94%となっています。黒油は前年同月比80%、冬期の需要期に入った一方で暖冬により減少となっています。

白油は、前年同月比97%、ジェット燃料油の需要が高く推移しているほか、製油所間輸送需要が見られている。一方で、受け入れ先の油槽所が地震により被災したことで輸送出来ない地域が見られたようです。

ケミカルは前年同月比87%、ケミカル市況は依然として厳しい環境であり低調に推移しています。

それでは4ページ以降、貨物ごとの状況です。1月の欄と対前月の欄をご覧ください。

鉄鋼ですが、前年同月比で 99.7%、前月比では 92.8%
原料は、前年同月比で 94.8%、前月比では 89.3%
燃料は、前年同月比で 109.6%、前月比では 81.2%
紙・パルプは、前年同月比で 107.0%、前月比では 89.6%
雑貨は、前年同月比で 91.8%、前月比では 84.8%
自動車は、前年同月比で 80.4%、前月比では 71.2%
セメントは、前年同月比で 88.3%、前月比では 79.2%

貨物船全体の輸送量は、1,465万2千トンで

前年同月比で 92.6%、前月比では 83.0%となっています。

黒油（こくゆ）は、前年同月比で 79.6%、前月比では 89.5%

白油（はくゆ）は、前年同月比で 97.0%、前月比では 95.2%

ケミカルは、前年同月比で 87.1%、前月比では 103.2%

一般タンカーの輸送量は、775万2千トンで

前年同月比で 90.9%、前月比では 94.2%となっています。

続きまして、

高压液化は、前年同月比で 101.4%、前月比では 99.0%

高温液体は、前年同月比で 85.4%、前月比では 98.6%

耐腐食は、前年同月比で 90.0%、前月比では 92.0%

特タン船の輸送量は、102万6千トンで

前年同月比で 95.8%、前月比では 96.3%となっており、

全てのタンカーの合計は、877万8千トンで

前年同月比で 91.5%、前月比では 94.5%となっています。

次に資料5、長距離フェリーの令和6年1月の輸送実績でございます。

1月の欄と、右のほうの対前月、対前年同月比のところをご覧ください。

まずトラックですが、

北海道は、9,826台で、前月比83.8%、前年同月比で98.1%

北九州は、27,860台で、前月比80.9%、前年同月比で104.0%

中九州は、9,431台で、前月比97.6%、前年同月比で98.4%
南九州は、11,527台で、前月比86.1%、前年同月比で105.7%
となっています。

次のページ、旅客でございます。

北海道は、5,207人で、前月比93.6%、前年同月比で131.2%
北九州は、66,208人で、前月比89.5%、前年同月比で118.4%
中九州は、27,440人で、前月比105.0%、前年同月比で117.6%
南九州は、21,242人で、前月比83.6%、前年同月比で113.1%
となっています。

次のページ、乗用車でございます。

北海道は、2,099台で、前月比100.5%、前年同月比で129.5%
北九州は、23,176台で、前月比98.8%、前年同月比で105.0%
中九州は、4,788台で、前月比115.8%、前年同月比で118.9%
南九州は、7,310台で、前月比99.6%、前年同月比で99.4%
となっています。

1月分のトラックの実績については、対前年同月比では、同じような実績
ですが、1月中旬の大雪がトラックの乗船の減少の要因のようです。

旅客の実績については、対前年同月比では全ての航路で、2年以上連続で
上まわっており、コロナ禍からの回復傾向は続いているものと思われ
ます。

乗用車についても、例外の月もありますが、対前年同月比ではコロナ
禍からの回復傾向が継続しているものと考えております。

説明は以上になります。

土本船員労政課長

お手元の資料6をご覧ください。

ここにいる皆様にもご協力いただきました最低賃金ですが、
最低賃金専門部会を設けまして、「近畿内航船運航業及び木船運航業最低賃
金」、「近畿海上旅客運送業最低賃金」及び「近畿漁業（沖合底びき網）最

低賃金」の改正について、皆様にご議論いただきまして、現在、最終段階にありまして、令和6年3月18日に官報への決定公示を行いました。

この資料にありますとおり、決定公示から30日を経過した日、令和5年4月17日から新しい最低賃金が発効することになりましたので、ご報告させていただきます。

内航鋼船運航業及び木船運航業につきましては、一律7,500円アップ
海上旅客運送業につきましては、一律7,400アップ
沖合底びき網漁業につきましては、8,500円アップの金額になります。

金額につきましては、公示に記載しておりますので、省略させていただきます。

私からのご報告は以上となります。

横見部会長：

ありがとうございました。

ただいまの説明について何かご質問等ございますでしょうか。

佐藤委員：

長距離フェリーですが、乗用車と旅客についてはかなり台数が伸びてきていますが、その一方でトラック需要はあまり伸びていないように見受けられます。最近、どこの航路が何%空きがありますという記事をみます。多分2024年問題で物流のシフトができますよという意味で載せていると思いますが、今後の伸びというのは、予想はされているのでしょうか。

村上海事振興部次長：

トラックの輸送実績につきましては、景気の低迷といたしますか、船に限らず物流全体の動きが低調に推移しているのではと考えております。現在、国土交通省では、3か月ごとの中・長距離フェリーやRORO船のトラック輸送に係る積載率動向についてホームページに掲載しており、航路ごとにどれくらい空きがありますという資料を公表しています。まさしく物流2024年

問題への対応として、少しでもモーダルシフトのきっかけになればということで、船社さんにご協力いただき集計・公表しているところです。それが実際に利用につながるのか、トラックドライバーの労働時間の規制強化がいよいよ始まってトラック業界の方々がどう対応されるのか注目しています。フェリー事業者の話をお聞きしますと、すでに瀬戸内の航路は積載率が高いですが、土日の方がまだ若干余裕があるということで、土日に利用いただけるトラック会社さんをターゲットに営業を強化しているというようなお話もありましたので、少しでもフェリーやRORO船の利用に繋がればと思います。

佐藤委員：

最近そのように後押ししていただいているというのもあるんですが、その一方で、特定技能制度にトラックドライバーが追加されて、今後数万人単位で受け入れていく方針が出されましたが、物流業界も人もいないという中で、船にシフトという動きもある一方で、外国人に頼っていく考え方も持っているのかなというところはあるんですが、今後の動きは注目しています。

村上海事振興部次長：

そうですね。どの業界も本当に人手不足に陥って、今回の規制強化がなくてもトラックドライバーは減っていくという予想統計が出ています。トラックドライバーになろうという若者が少ない中で労働環境の改善や残業時間の短縮など、少しでも職業としての魅力向上を目指してトラック業界も取組をすすめているところですが、それでも外国人労働力を活用せざるを得ないところまで至ったのかと驚いているところです。

佐藤委員：

あれも許可されたんですか。

村上海事振興部次長：

まだこれからです。最初は14業種でしたが、それぞれの業界で合意を得たうえで、出入国在留管理庁が業種ごとに特定技能の制度を認めるような流

れと思いますが、今回、トラックドライバーや鉄道の分野でそのような動きが始まったところかと思います。船員に限らず、どの業界も人手不足という喫緊の課題を抱えているようです。

佐藤委員：

トラックドライバーに特定技能を受け入れるという、あのニュースは衝撃的でした。

横見部会長：

路線バスもですかね。もういろいろなところで人手不足が深刻化してくる。

ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、続いて、船員政策や船員労働全般に関わる様々な問題につきまして、ご意見や情報などございましたら、ご発言をお願いいたします。

それではまず、労働者委員のほうから何かございますでしょうか。

坂上委員：

労働協約改定交渉の中央の妥結状況と進捗についてですが、カーフェリーは早い時期ですが、3月15日、組合要求に対し満額回答で妥結しております。内容については、基本給が標令給1%、1730円と職務給が各職2.47%の改善、船内衛生作業手当が倍額の1欄36,000円、2欄18,000円の改善となっております。また、船内衛生の向上として、新型コロナウイルスのワクチン接種費用について、ワクチンを接種した場合は、会社が費用を負担するという要求についても組合要求どおりで妥結しております。

中央の内航については、新型コロナウイルスのワクチン接種費用と基本給について仮合意しております。その他、手当として船長水先慰労金の上限金額2,000円の改善と、年間臨時手当は昨年にプラス0.1割の42.8割というのが今現在の交渉状況となっております。

以上となります。

横見部会長：

ありがとうございます。

ほかの労働者委員から何かございますでしょうか。

では、続いて、使用者委員のほうから何かございましたらお願いします。

公益委員から、いかがでしょう。

横見部会長：

賃上げがこの業界ではどうなっているのかなというのが気になっていたところですが、他産業と同じように、労働組合の要求どおり満額というようなお話を聞いて安心いたしました。

横見部会長：

それでは本日の部会は終了いたします。

次回は4月24日（水）16時00分からとなっておりますので、皆様よろしく願いいたします。

（配付資料）

資料1．令和6年2月分 近畿運輸局管内船員職業紹介実績表

資料2．令和6年2月分 月間有効求人・求職状況（近畿管内）

資料3．令和6年2月分 局別月間有効求人数（商漁船・職部員別）等

資料4．内航輸送実績状況（令和6年1月分まで）

資料5．長距離フェリー輸送実績の推移（令和6年1月まで）

資料6．船員の特定最低賃金の改正決定に関する公示